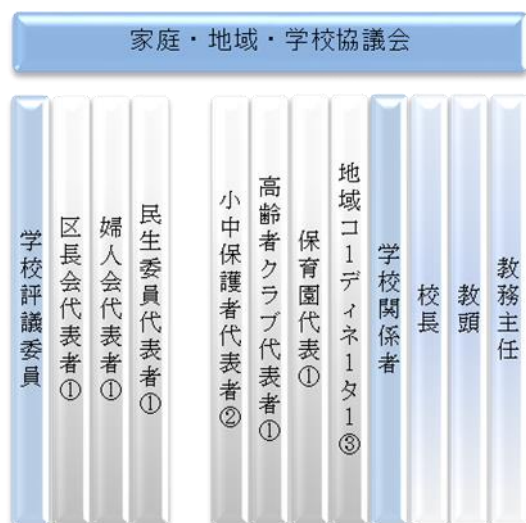


1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成



(2) 協議会の内容

7/5（金）第1回：「家庭・地域・学校協議会」の概要説明、スクールプラン、学校現状報告、学校評価の説明

3/2（月）第2回：学校評価結果考察、学校の様子、今年度の活動の様子

(3) 協議会における成果と課題

施錠をはじめ学校のセキュリティの緩さについて指摘を受け、改めて学校の安全・管理について見直した。施錠の徹底や不審者対応の職員研修、避難訓練を実施することで学校の安全体制を確立することにつながった。課題としては、協議会のメンバーが1年で交替となってしまふことである。継続して務めてもらうことで学校理解が深まり、実効性の高い活動や運営ができるのではないかと考える。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

- ふるさとの自然や文化に親しみ、歴史、産業、先人の偉業などについて学びながら、積極的に人に関わっていかうとする態度を養う。
- 地域のよさを知り、地域に対する誇りと愛着を持つと同時に、体験活動を通して社会の一員としての素地を養う。

(2) 活動の実際

①地域の宝「大黒山」知名度アップに向けて（4年生）

学校の裏山（大黒山）。すぐ近くにありながら登ったことがない。どの山が大黒山なのかもよく知らない。子ども達の中から「大黒山について知りたい」という想いから始まったふるさと学習。まず、地域の方を招いて大黒山の話聞いた。「大黒山」の名前の由来や歴史を知り、よりいっそう登山への想いが強まった。しかし、登山には危険がつきものである。そこで、地域の山の会の方を通して、

「小浜山の会」の協力を得て下見を実施し、安全確認をしたところで子ども達との登山となった。5月に初めての

「大黒山登山」2回目は比較対象として「三十三間山（三方）」に登った。その比較から大黒山の良さや課題を見つけ出した。課題として上げられたものに、「知名度がない」ということがあった。そこで、自分たちで名付けた休憩場所や登山道案内の看板設置のために3回目の登山を実施した。また、登山道の入り口の看板設置に関しては、公民館はもちろんのこと、地域の地権者の方にも理解していただき子ども達手作りの看板を設置することができた。最終的には、作成したパンフレットを口名田地域の公民館・郵便局・コンビニなどの店



舗に置いていただくとともに、市の商工観光課の承認を得て、各道の駅や新しくできた駅前の「インフォメーションセンター」にも設置してもらうことになった。大黒山の知名度を上げたいという子ども達の思いが、パンフレットを通して市内や県外（海外）に広がっていくような活動となった。

②「米物語 in 口名田」の活動を通して（5年生）

本校の5年生は、地域内の高齢者クラブおよび地域内の農家の方の協力を得て「米作り」に取り組んだ。子ども達は体験を通して、農作業の大変さを実感できた。また、福井のブランド米「いちほまれ」を生み出した福井県農業試験場を見学し、一つの品種を作り出す大変さも学習した。農業の大変さを知ること、今年度は、収穫した米をふるさと祭りで「にぎり屋」を出店し地域の方々に味わってもらおうこととした。繁盛し喜びを感じられた反面、品切れになり、並んだ方やお世話になった方に十分な気持ちを伝えきれなかった。米作りの学習を通して、ふるさとに対する親しみ、愛着、ふるさとの人々とのつながりの大切さ等、多くのことを学ぶことができた。



（3）地域コーディネーターの活動概要

・地域コーディネーター（3名）

元口名田公民館長・ふるさとづくり協議会会長・通学安全見守り隊員（山の会）

- ・地域コーディネーター合同協議会（6/12・1/31）の実施。1回目は、4月下旬頃から始動開始したふるさと学習への提案などアドバイスを受けた。2回目は、3名の方々の得意分野の話をお聞きする教員研修を実施した。

【3名の方の話の内容】

- ①口名田地区の歴史：各集落の特色について
- ②昭和20年代の口名田地区・口名田小学校：子ども達の生活を中心に
- ③口名田の抱える課題と未来

（4）特に工夫した事項

- ・地域に対して「自慢できる」「誇りが持てる」ように、本物の体験（地域の強みを活かした体験）ができるように活動を進めた。
- ・地域の方々だけでなく、他地域の方、行政の方など、様々な人とつながる機会が持てるようにした。

（5）成果と課題

成果としては、「ふるさとのよさ・自慢を見つけ説明できる」と評価した子ども達が86%となり目標指数を達成できたことである。学習発表会では、「自分の思い」を堂々と語る姿が見られ、ふるさとのことを理解し伝えようとする気持ちが育っている。

しかし、「継続」という点で課題が残る。学んだことで見つかった課題があるはずだが、1年での完結という形が残念である。例えば、今年度の4年生の活動で設置した登山口の看板がどのように使われているかの検証などが必要であると感じた。